



統合病院の現在——中東遠総合医療センター——

城西大学経営学部教授 伊関友伸

中東遠総合医療センターの 運営会議に出席

2019年7月17日、静岡県掛川市と袋井市が企業団をつくる中東遠総合医療センター（500床）の運営会議に出席した。同病院は、旧掛川市立総合病院（450床）と旧袋井市民病院（400床）が統合再編した病院で、2013年5月に開院している。運営会議は、両自治体の首長、市議会議員、地元医師会長から構成され、有識者として筆者が委員となっている。会議では宮地正彦企業長・院長をはじめとする職員から病院の現状の報告をいただいた。

医師不足を原因として 二つの市立病院が統合

中東遠総合医療センターが開設された要因の一つは医師不足である。二つの旧病院は2004年に導入された、新しい医師の研修制度を契機に医師が大幅に減少し、内科系全般のほか産婦人科、小児科、麻酔科など診療

体制の維持が難しくなった。特に救急体制の維持は危機的な状況に陥った。二つの病院の建物は老朽化し、将来起きると想定されている東海地震の際には、大きな被害を受ける可能性が高かった。二つの市はそれぞれに病院のあり方検討委員会を設置し建て替えについて議論したが、委員会においては、400床規模の病院を人口12万人の掛川、8万人の袋井が維持することの厳しさが指摘されたほか、二つの病院に医師を派遣する大学からも、二つの市が別々に中規模病院を建築しても医師の派遣をすることは難しいという見解が示された。

大学からの意見も重く受け止めた上で、両市の検討委員会は二つの病院の統合を行うべきだ、という提言を行う。2007年12月には「掛川市・袋井市新病院建設協議会」が設置された。協議会において、予算や人材を結集し、より質の高い医療を行うことのできる500床の基幹病院を建設することが提案された。

二つの病院の統合に対して、当初は住民・

議会・職員から強い疑問の声と反対が起きる。しかし、全ての議論を市民、マスコミに完全公開した結果、医師不足に悩む二つの病院の切実な状況への市民理解が進み、両市は1年かけて統合を決断。2009年1月に統合に向けた協定が締結された。2013年4月には「掛川市・袋井市病院企業団」が設立され、同年5月に中東遠総合医療センターが開院した。

開院6年で どのような成果が出てきているか

心配された医師雇用については、開院の時点で93人の医師が勤務していたが、図表1のように2019年7月の時点で134人に増加している。特に、宮地企業長が若手医師の研修に力を入れていることもあり、初期研修医は開院時点の8人から29人に増えている。2019年度から採用の定数が12人から14人に増えたが、1位希望者は県内自治体病院でも最多となっておりフルマッチを達成した。大学からのたすきがけを含め、来年4月には32人となることが期待される。モチベーション



図表1 中東遠総合医療センター医師数

診療科	開院時点	R1.7時点
総合内科	2	2
糖尿病・内分泌内科	2	2
腎臓内科	3	5
血液内科	2	0
神経内科	2	2
呼吸器内科	2	5
消化器内科	5	4
循環器内科	7	10
外科	8	9
人工透析外科	1	0
整形外科	9	7
脳神経外科	6	5
小児科	5	7
産婦人科	3	6
泌尿器科	3	3
皮膚科	2	3
眼科	3	5
耳鼻いんこう科	2	4
放射線診断科・IVR	2	3
腫瘍放射線科	1	1
麻酔科	5	8
歯科口腔外科	3	3
病理診断科	1	1
臨床検査科	0	1
救急科	4	3
臨床研修センター	0	2
人間ドック健診センター	2	4
2年目研修医	3	12
1年目研修医	5	16
1年目研修歯科医	0	1
合計	93	134

医療提供体制の指標となる、2019年度のDPCの調整係数Ⅱ（注1）は0.1332で、標準病院群（旧Ⅲ群…注2）で全

であるが、統合への反対運動により二つの市立病院がそのまま存続していればどうなったであろうか。恐らく、医師は勤務せず、救急などの医療も十分に提供できていなかったと思う。運営委員会の席で、ある市長さんが「わ

ンや能力が高い初期研修医が集まっているという。
医師を派遣している大学も医師不足であり、必要な医師数を充足できていない診療科も存在するが、センターに勤務する初期研修医を育て後期研修医となり、センターと大学医学部との間を行き来して研修することで、センターに勤務する専門医を増やしたいと宮地企業長は発言される。
医療提供の状況はどうか。2018年度1年間の救急の患者数は2万550人、救急車での搬送患者数が6228人に達している。これは、中東遠医療圏にある五つの自治体病院の中で一番多い受け入れ数であり、静岡県内自治体病院の中でもトップクラスとなっている。2015年8月には県内10番目の救命救急センターの指定を受けている。

地域を支える病院に

病院統合から6年を経過し、中東遠総合医療センターは確実に成長している。仮定の話であるが、統合への反対運動により二つの市立病院がそのまま存続していればどうなったであろうか。恐らく、医師は勤務せず、救急などの医療も十分に提供できていなかったと思う。運営委員会の席で、ある市長さんが「われわれは医師不足の時に本当に病院運営に苦

筆者プロフィール

伊関友伸（いせき ともとし）

1987年埼玉県入庁、県民総務課、大利根町企画財政課長、県立病院課、社会福祉課、精神保健総合センターなどを経て、2004年城西大学経営学部准教授、2011年4月同教授。研究テーマは、行政評価、自治体病院の経営、保健・医療・福祉のマネジメント。総務省公立病院に関する財政措置のあり方等検討会委員など、数多くの国・地方自治体の委員等を務める。著書に「まちに病院を!」（岩波ブックレット）「自治体病院の歴史 住民医療の歩みとこれから」（三輪書店）などがある。

タイトルの「アスクレピオスの杖」とは、ギリシア神話に登場する名医アスクレピオスの持っていた蛇ク

注2…このほかDPCでは大学病院並みの機能を有する特定病院群（旧Ⅱ群）が159病院ある。中東遠総合医療センターも、特定病院群入りを目指している。

注1…厚生労働省が医療機関ごとの診療実績を基に、医療機能の向上への取り組みや地域医療への貢献を評価した係数。係数が高いほど診療報酬が高くなり、経営上のインセンティブが働くとともに、高度な医療機能を有する病院であるとされている。

中東遠総合医療センターは、まだまだ成長の可能性はある。これからの中東遠総合医療センターの飛躍を期待したい。

地域に必要な医療を提供していただいており、心から感謝している」という旨の発言をされておられたのが印象に残っている。